

いまどきの図書館は、 どのように生まれてきているのか？

元ぎふメディアコスモス
総合プロデューサー
吉成信夫

2026.10.06

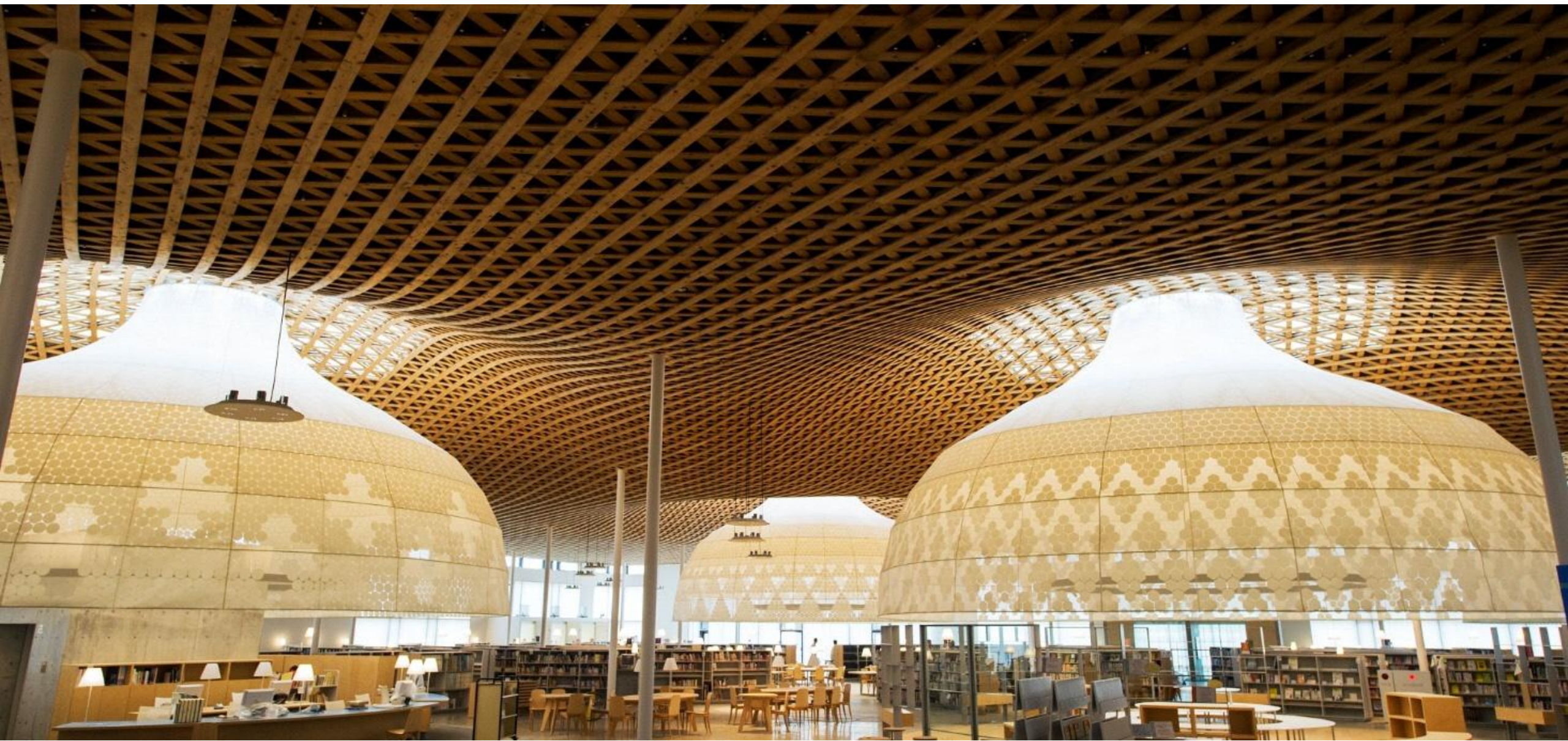
廃校再利用した
森と風のがっこう

標高7百m、
10世帯の集落

老若男女が
集まる居場
所。

校庭は果樹の
ガーデン。
だれでも好き
に食べていい。





ぎふメディアコスモスの図書館全景

図書館ってなに？どんなところなの？

公共図書館は全国に約3300館あるけれど、その多くは、

しゃべってはだめ。ご飯食べるのもだめ。
寝てはだめ。飲み物は蓋ついてないとだめ。
お行儀よく。

でも、それでほんとによいのだろうか。

いまどきの新たな図書館は、大きく変わってきている。  「居場所としての図書館」

○単館から複合施設へ

→中心市街地の空洞化。子育て支援、市民活動支援等と建物を一緒にして相乗効果を生み出す

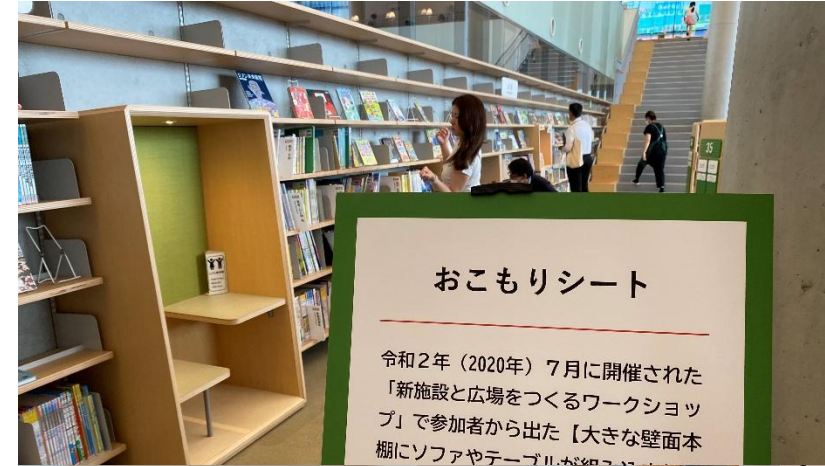
○まちなかにつくって賑わいを生み出す

→人口減、高齢化。まちなかの機能再編。図書館の集客力

○本を貸すだけでなく、交流の生まれる場所へ

→子どものクリエイティブ能力向上。文化的情報を集約

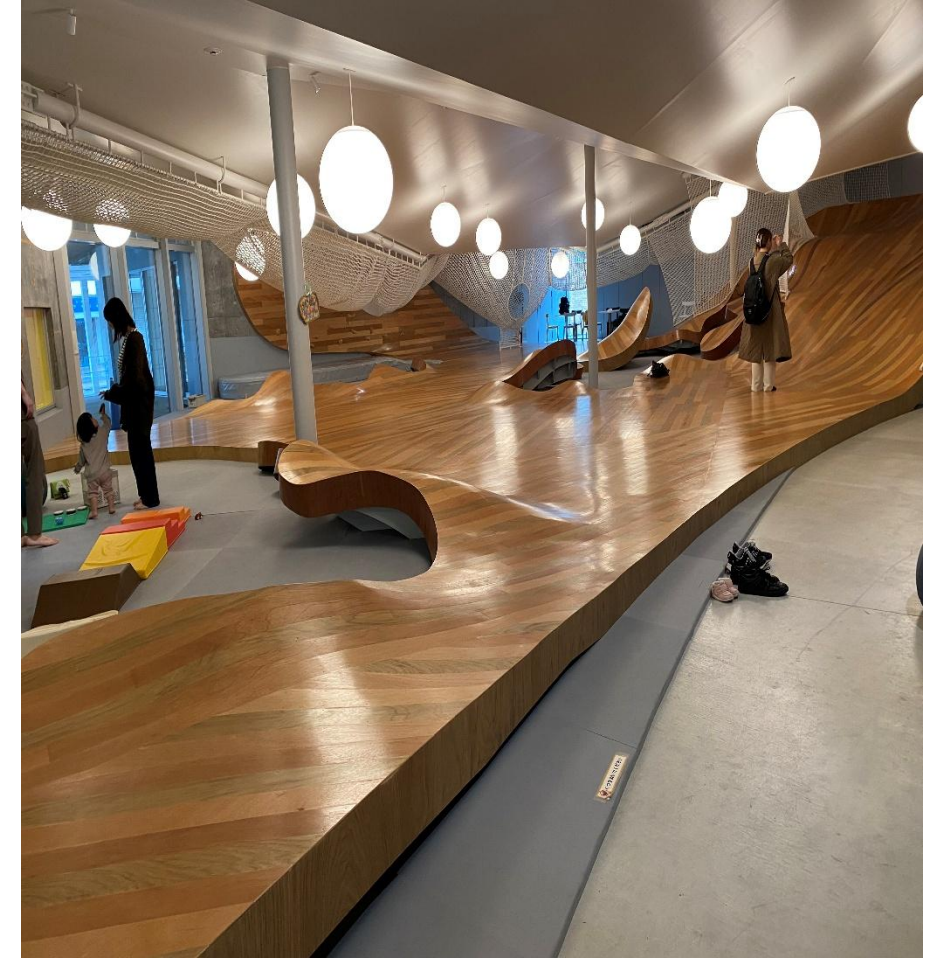
事例1:オニクル(茨木市)図書館＋遊び場＋子育て支援＋カフェ＋市民活動センター＋プラネタリウム



事例2: ホントカ(新潟県小千谷市)図書館 + 遊び場 + カフェ + 郷土資料館



イベント時にレールで動かせる本棚。



図書館脇の子ども遊び場。のびのび。

事例3：二見図書館(明石市)ヨーカドー内出店 図書館



毎日椅子の位置が変わる。利用者が動かせる



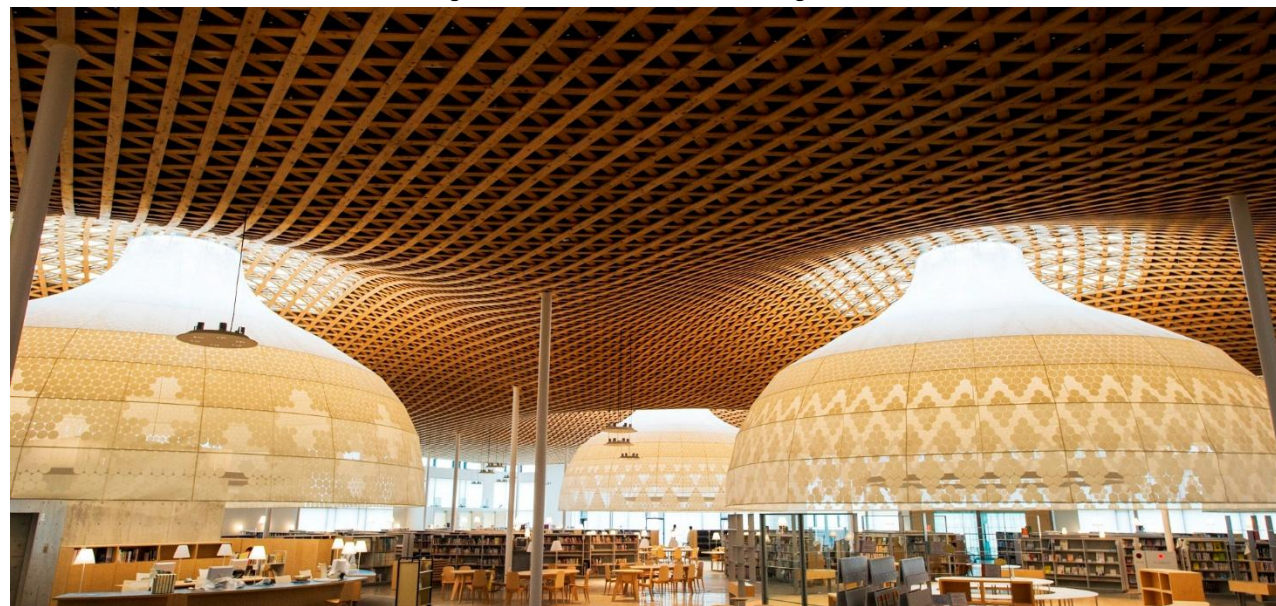
まちのリビング。おしゃべりOK。カラオケ大会も。市民持ち込み企画がてんこ盛り！

事例4：石川県立図書館（金沢市） 図書館＋遊び場＋畑＋カフェ



児童本棚の上は遊び場。歓声があがる。

事例5: ぎふメディアコスモス(岐阜市) 複合施設 図書館 + 市民活動交流センター + 国際交流 + ホール + ギャラリー + スタバ + コンビニ



野外広場でも絵本の読み聞かせ



図書館は仕切り壁がないので開放的。
だれでも、どこでも、いつでも自由に。

わんこカートは絵本を運べる！

楽しい図書館

岐阜新聞
に掲載

宮沢 賢治／よだかの星

〔新編 銀河鉄道の夜〕(新潮文庫刊)に収録

この童話に僕は30代で再び巡り合った。これは昔のお話なんかじゃない。いま日本のどこかでいじめられている子どもたちの必死の逃げ場のない叫びを感じた気がした。僕が東京を離れて子どもたちと生きようと決めたきっかけとなった作品です。



田口ランディさんのエッセーに「根をもつ」と、翼をもつとあります。根をもたない光景が見えてこない

田口ランディさんのエッセーに「根をもつ」と、翼をもつとあります。根をもたない光景が見えてこない

田口ランディさんのエッセーに「根をもつ」と、翼をもつとあります。根をもたない光景が見えてこない

田口ランディさんのエッセーに「根をもつ」と、翼をもつとあります。根をもたない光景が見えてこない

田口ランディさんのエッセーに「根をもつ」と、翼をもつとあります。根をもたない光景が見えてこない

なんだかハーメルンの笛吹きみたいだねえ

うよと腰かけるのいい角度ね

藤のベンチでくつろぎ読書

館長や司書さんに手紙を出そう

メディアコスモス館長 吉成 信夫さん

本棚の間にポストがある!

さあさあ! おはなし会をはじめよう

チリン チリリン

ゆったり読書にいい角度だよ

そうだ! 図書館に行こう!

私が学生だったころ、まじと入り浸った図書館はあ...

「耳をすませば」の主人公、雪野のお父さんに似てますね

おなかに本を詰めて、幼稚園に出張に行ったりするよ

わんこカート

わーい

イラスト／菊池重幸子

グッド・ストライプス

自分もこのまま認め合い受け入れ「結婚」



事例6: カニミライブ図書館(可児市) スーパーマーケットの無印良品内に市立図書館



珈琲がどの席でも飲める。無印良品との境がなくて一体的。



図書館＝静寂だけが支配する空間でよいのだろうか？

それでは堅苦しい。息がつまってしまう。

ここは図書館だよ。
みんな、なんで
おしゃべりしないの？

ノルウェー図書館法
吉田右子先生の超訳

図書館が変わる！まちにひらく居場所に！

- 静寂だけから会話ができる居場所へ
(サイレントルーム併設する例も)
- 本を借りるだけでない、楽しい居場所へ
- 本がぎっしりだけでない、余白と遊びのある空間へ



日本の公共図書館「知的緊張感」「自己との対話」
「答えを得る」はOK。でも「文化的刺激」「他者との会話」「問いを創る」は？ 引用：吉田右子氏

本とつながる。本からつながる。(明石市) 本のまちビジョン



いま、日本の各地で起きていること。

- 図書館がまちづくりの核になる。ひとの豊かな関係を創る
- 図書館はまちのひとや情報をつなぐハブになる
- 市民がいっしょにつくる。ヨソゴトからジブンゴトへ

京丹後市には6つの図書館がある

- 地域ごとの図書館の存在はこれまでもこれからも大切。
- これからの図書館は？どうすればわくわくドキドキする？
- あなたのほしい未来はそこにあるのか。
- もっと新たな何かをプラスするのか？

あなたは、どう思いますか。

京丹後のこれまでとこれからを考えてみよう！

- まちの記憶、図書館（どこの地域かも含めて）の記憶を思い出してみよう。
- まずは自分の記憶をポストイットに書いてみる
- ポストイットに書きながら、じぶんの話をしてみよう
- グループ全員で模造紙を見ながら、思い出したことを追加してみる